

模試について

はぐま祭も終わり、1年生もようやく磐南の生活に慣れてきたと思います。2年生はこれから部活などの中心となり、そして3年生は代休からマーク模試がはじまり、いよいよ完全に受験モードですね。とはいえ、本当はここで受験スイッチが入ったのではちょっと遅い。今回の3年マーク模試は、スタートではなく、ここまでの途中経過を確認するためのものであってほしいです。ですよね？だから、1・2年生に伝えたいのは、3年生は今、急に受験生になったのではなく、ちゃんと積み上げてきた結果、はぐま祭を経て、これからの受験生活を迎えているということです。

さて、先日、受験戦略についての話を聞いてきました。そこでは、例えば神戸大学あたりを目指すのであれば、

英語と数学の早期完成が必要。高校1年生の段階で数Ⅰ・Aを終わらせたい。

高校2年生は英数国を共通テストレベルまで完成させたい。

英数国は習ったときに習得するつもりで。(授業で習った時点で身に着けてしまいたい)

二次試験対策としては、英語が合否に大きく影響する。また、数学は自己採点と実際の採点のギャップを埋めるために模試を活用したい。

模試を受験することで、脳が活性化し、集中力がつくので、模試の受験そのものが受験勉強になる。

というような話をしていました。

もちろん、目指す大学・受験に必要な科目等々、人それぞれではあるのですが、注目してほしいのが、「**自己採点と実際の採点のギャップを埋める**」という感覚です。よく、記述問題の自己採点は採点基準がわからないからできない、という人がいます。もちろん、気持ちはわかりますが、そのまま放置してしまえば、自分が克服すべき課題がわからないまま、模試の結果だけに一喜一憂するだけで、実力はつきません。

大事なのは、受験後に自分でいろいろ調べながら採点してみて、それが実際の採点とどれだけギャップがあるかを見てみましょう。これをするだけで、まず、**解答の書き方が変わります**。自分はこれが3点減点だと思っていたけど、5点減点だった、とか、これは評価してもらえないと思っていたけど、2点もらえた、といった分析をすることで、実力以外で損をすることがなくなります。**7月には全学年記述模試があります。記述模試の自己採点を意識してみてください。**

もう一つ、3年生のマーク模試の様子を見て気になったことがあります。

それは、マークシートにシャープペンシルで記入している人がまだいる、ということです。これも毎年書いていることなのですが、毎年書き続けようと思います。

というのは、マークシートはどうやって読み込んでいるのか、ということです。今、本校のほとんどのテストがコンピュータで採点するようになっていきますね。これは、学校のスキャナで読み込んで、画面上で○つけをしています。このスキャナは「**可視光線**」でスキャンしているので、デジカメと同様、目に映るものと同じ画像を先生方は画面上で見て採点しています。ですが、マークシートは、スキャナではなく、マークシートリーダーという機械で読み込んでいるのです。このマークシートリーダーは、可視光線ではなく、「**近赤外線**」を照射して読み込みをしています。詳しい話は飛ばしますが、「**近赤外線**」が鉛筆の芯に含まれる「**黒鉛**」に反射することを利用してマークを読んでいるのです。ちなみに、ボールペンやマジックでは反応しません。もちろん、シャープペンシルの芯にも黒鉛は含まれていますが、シャープペンシルの芯は、黒鉛の量を少なくして、折れにくくしています(なお、マークシート用の黒鉛の多いシャープペンシル芯が販売されています)。また、シャープペンシルの先の金属が当たり、マークシートに凸凹をつけ、うまく反射させなくなる可能性もあります。そこで、共通テストではシャープペンシルは禁止され、「**黒鉛筆(H、F、HBに限る)**」となっているのです。…もちろん、バレたら失格、というわけではないですが、仮にリードミスがあっても救済はないです。

あと、間違いマークはしっかり消さないといけなく、薄くても黒鉛が残っているなど、マークシートについて書きたいことはまだありますが、とにかく伝えたいことはただ一つ、**シャープペンではなく鉛筆を使いましょう**。

今回の大学研究：神戸大学

神戸大学に興味がある人は多いと思いますが、そんな人でも考えたことがないだろう、神戸大学研究です。

まず、有名な話ですが、神戸大学は、「旧三商大」をルーツの一つとしています。

「旧三商大」：東京商科大学→一橋大学 / 神戸商業大学→神戸大学 / 大阪商科大学→大阪公立大学
ですので、大学としては経済系、経営系（日本で最初の経営学部）～法学系に強いのが伝統です。

そして、戦後の大学統合により、工業専門学校や、師範学校、さらに医科大・商船大などが統合され、日本有数の総合大学となりました。11学部、15大学院研究科を持つ大学は旧帝大並みと言っていいでしょう。

そんな神戸大学を象徴する学部が国際人間科学部と、海洋政策科学部です。どちらも名前からはちょっとわかりにくいですが、どちらも文系・理系のどちらからも受験可能で、内容も文理融合の研究領域を持っています。

まず、国際人間科学部は、教育学部と、教養学部が合体したような学部です。子ども教育学科では小学校教諭の免許は取得できますが、学部としては教員養成を主とはしていないので（兵庫県の教員養成大学は、兵庫教育大学がある）、どちらかという、文理にまたがるなんでもありな学部です。環境共生学科では、中・高の理科・数学・家庭・社会（地歴・公民）の免許がとれるそうですが、1つの学科でそんな幅のあるところはなかなかないです。文化人類学とか、異文化理解、フィールドワークなどに興味がある人は一度調べてみるとよいでしょう。

もう一つ特徴的な学部が海洋政策科学部です。この学部のルーツは、私立川崎商船学校になります。これは、川崎造船所（今の川崎重工業、あの Kawasaki ) の設立者 川崎正蔵 の肝いりで作られた学校でした。これが 神戸商船大学 になり、神戸大学に併合されて、現在の海洋政策科学部になっています。海洋政策科学部も、文系・理系 どちらからでも受験可能で、船舶の運航／海洋に関する研究／海洋に関する政治経済 を学ぶことができます。パンフレットには今話題の「マイクロプラスチックの海洋汚染」を研究している教授が載っていました。「海」に関わることであれば、何でも学べる学部です。漠然と「海」に興味がある人は、調べてみてください。ややマイナーなようですが、神戸商船からの伝統があり、大手商社などへの就職状況は超優良な学部です。

もう2つ、神戸大学の最近のトピックを挙げてみます。その①システム情報学部が、工学部から分かれて独立しました。情報系を考えている人にとっては、人数も多く、魅力的だと思います。

その②医学部の中に医療創成工学科が新設されました。これは、医療機器開発に特化した学科で、医学部の中に作られたことが重要です。「医工融合」を目指した画期的な学科だと思います。医療系というと、医学科・看護科・薬科に目が行ってしまいがちですが、人によってはこういった方向での医療へのかかわりも視野に入れていいように思います。また、工学部志望の人でも、医療機器に興味があるなら、この学科は超おすすめです。

紙面の都合上、全てを紹介しきれませんが、これらの学部以外でも、文理融合の領域を幅広く（医療創成工学科のように、医工融合も）学ぶということに重点を置いている、というのが、神戸大学らしさだと思います。

神戸大学らしさは入試の仕組みにも表れているようです。というのも、神戸大学は他の難関大とされる大学に比べて、共通テストの配点がやや高め、かつ、二次試験も標準的でいわゆる難問が出題されるわけではありません。これは、基礎学力を幅広く身につけ、大学ではそれを土台に文理融合の領域に取り組んでほしい、という大学側からのメッセージと言えるでしょう。裏返すと、受験生側からは、共通テストで点数が取れなかった場合、出願しにくい（逆転しにくい）大学ということです。よくありがちな話として、大阪大学を第一志望にしていたけど、共通テストで思うように点数が取れなかったから、神戸大学に下げて出願する、という考え方があります。ですが、その時点で共通テストの点数が取れていない以上、実は下げたことにならない、という大学です。入試の仕組みにも大学側の考えが反映されています。そのあたりもふまえた大学選び（受験戦略）をしたいものですね。

今回は神戸大学に特化しましたが、もちろん、神戸大学がいい、という話ではありません。大学調べにはいろいろなやり方があります。こういった視点で大学調べをしてみると、いろいろ発見がありますよ。